(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報(A)

(11)特許山顧公開番号

## 特開平6-321782

(43)公開日 平成6年(1994)11月22日

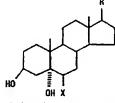
識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
56 ADU	9454 - 4 C	•	
565	9454 -4 C		
00	9051 ~4 C		
00	9051 -4 C		
		56 ADU 9454-4C 565 9454-4C 00 9051-4C	56 ADU 9454-4C 565 9454-4C 00 9051-4C

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 9 頁)

(21)山嶼番号	特顧平5-112760	(71)出願人	000182432
			首藤 紘一
(22)出順日	平成5年(1993)5月14日		東京都目黒区東山2丁目25番6-102号
			公務員宿舎
		(72)発明者	首藤 紘一
			東京都目黒区東山2丁目25番6-102号
			公務員宿舎
		(72)発明者	遠藤 泰之
			千葉県千葉市稲毛区弥生1-170-2-205
		(72)発明者	插本 祐一
			東京都新宿区中落合3-16-18
		(74)代理人	弁理士 今村 正純

(54) 【発明の名称】 ステロイド化合物

(57) 【要約】 〔構成〕以下の式: 【化1】



(式中、X は=0 または -O田を示し、R は-O-CO-R1 または -CHR2 -R3 を示す (R1 はアルキル基等であり、R2 は水素原子あるいは低級アルキル基であり、R2 はアルキル基、アルケニル基、アルコキシ基等である)で示される化合物を有効成分として含む発がんプロモーター阻害剤。

【効果】発がんプロモーター結合蛋白CN-TPBP(Cytosolic-Nuclear Tumor Promoter-Specific Binding Protein) に対して強い親和性を示し、TPA 等の発がんプロモータのCN-TPBP に対する結合を拮抗的に阻害するので、発がん抑制剤として有用である。

【特許請求の範囲】 【請求項1】 以下の式:

[(61]

(式中、X は=0 または -OHを示し、R は-O-CO-R また は-CHR?-R3を示す (R1は直鎖または分枝したアルキル 基、直鎖または分枝したアルケニル基、直鎖または分枝 したアラルキル基、あるいは置換または非置換フェニル 基であり、R<sup>2</sup> は水素原子、あるいは直鎖または分枝した 低級アルキル基であり、R<sup>a</sup> は直鎖または分枝したアルキ ル基、直鎖または分枝したアルケニル基、直鎖または分 枝したアルコキシ基、直鎖または分枝したアルケニルオ キシ基、直鎖または分枝したアラルキル基、あるいは置 換または非置換フェニル基である) 〕 で示される化合物 を有効成分として含む発がんプロモーター阻害剤。

【請求項2】 発がんプロモーターがホルポールエステ ル類およびテレオシジン類から選ばれる請求項1記載の 阻害剤。

【請求項3】 発がん抑制剤として用いる請求項1記載 の阻害剤。

【請求項4】 以下の式:

(化2)

(式中、X は=0 を示し、R は-0-CO-R¹ または-CHR²-R³ を示す (R! は直鎖または分枝したアルキル基、直鎖また は分枝したアルケニル基、直鎖または分枝したアラルキ ル基、あるいは置換または非置換フェニル基であり、R<sup>2</sup> は水業原子、あるいは直鎖または分枝した低級アルキル 基であり、R³ は直鎖または分枝したアルキル基、直鎖ま たは分枝したアルケニル基、直鎖または分枝したアルコ キシ基、直鎖または分枝したアルケニルオキシ基、直鎖 または分枝したアラルキル基、あるいは置換または非置 換フェニル基である)。ただし、R は-CH(CH1)(CH2):CH (CLL), であることはない。) で示される化合物。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、発がんプロモーター阻

る発がんプロモーターの結合を阻害することができ、発・ がん抑制剤として有用な発がんプロモーター阻害剤に関 する.

[0002]

【従来の技術】発がんプロモーターは、それ自身ではが んを引き起こさないが、発がん性物質により惹起された 生物学的変化を増幅・修飾して、最終的な発がん状態に 至らしめる物質である。その代表的な物質として、12-0 ーテトラデカノイルーホルボール 13-アセテート (TP A) 等のホルボールエステル (ジテルペン化合物) やテ レオシジン(インドールアルカロイド)を挙げることが できる。これらの発がんプロモーターが結合する細胞内 レセプターの一つとして、カルシウム依存性蛋白質リン 酸化酵素 (PKC) が知られている。しかしながら、蛋 白質リン酸化酵素の基質特異性は低いこと、ならびに蛋 白質リン酸化酵素活性化の情報が核内に伝達される機構 は明らかではなく蛋白質リン酸化酵素の阻害剤は必ずし も発がんを抑制しないことから、これらの発がんプロモ ーターの細胞内レセプターとして、蛋白質リン酸化酵素 以外のレセプターの存在が強く示唆されていた。

【0003】本発明者は、これらの発がんプロモーター が結合する細胞内レセプターを検索するうち、蛋白質リ ン酸化酵素とは異なる複数の細胞内レセプター (発がん プロモーター結合蛋白: Tumor Promoter Binding Prote ins (TBPs), Biochem. Biophys. Res. Com. 166, 1126-1132, 1990) を発見し、さらに、それらの細胞内レセブ ターのうちの一つが、リガンド依存的に細胞質内から核 内へと移行する性質を有する発がんプロモーター特異的 結合蛋白であることを見出し、CN-TPBP(Cytosolic-Nucl 30 ear Tumor Promoter-Specific Binding Protein)と命名 した (Jpn. J. Cancer Res. 82, 665-675, 1991). [0004]

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記の発が んプロモーター特異的結合蛋白CN-TPBP に対する発がん プロモータの結合を拮抗的に阻害し、発がんプロモータ 一の作用を抑制する物質を提供することを目的としてい る。

[0005]

【課題を解決するための手段】本発明者は、上記の課題 を解決すべく、種々の化合物について発がんプロモータ 一特異的結合蛋白CN-TPBP に対する親和性を検索したと ころ、特定のステロイド化合物類が、発がんプロモータ 一特異的結合蛋白CN-TPBP に対して強い親和性を示し、 CN-TPBP に対するTPA等の発がんプロモータの結合を 拮抗的に阻害することを見出した。本発明は、上記の知 見に基づいて完成されたものである。本発明の発がんプ ロモーター阻害剤は、ホルボールエステルやテレオシジ ンのような蛋白質リン酸化酵素活性化作用を有しないの で、発がんプロモーターの作用を抑制することができ、 害剤に関する。さらに詳しくは、レセプター蛋白に対す 50 発がん抑制に有用である。本発明の阻害剤に有効成分と

して含有される化合物はステロイド系化合物であり、以 下の式(!):

[0006]

[化3]

 直鎖または分枝した低級アルキル基であり、R<sup>1</sup>は直鎖または分枝したアルキル基、直鎖または分枝したアルケニル基、直鎖または分枝したアルケニル基、直鎖または分枝したアラルキル基、あるいは置換または非世換フェニル基である)。上記の一般式(1)中、ステロイド骨格の3位および5位の水酸基はそれぞれβ配置およびα配置であり、X が一切を示す場合には、6位の水酸基はβ配置をとることが好ましい。R はβ配置でステロイド骨格に置 20 換することが好ましい。

[00007]式(I)で示される化合物として、例えば 以下の表1に示す化合物を挙げることができるが、本発 明の阻告剤に含まれる化合物はこれらの化合物に限定さ れることはない。

[0008]

【表1】

X R X R =0-0-CO-CH<sub>3</sub> =0-CII (CH 2)-CH3 =0-0-C0-CH 2 CH3 =0-CH(CH s)-CH2 CH3 =0-0-CO-(CH2)2 CH2 =0-CH (CH 3 )- (CH2 ) 2 CH3 =0-0-CO-(CH<sub>2</sub>), CH<sub>3</sub> =0-CH(CH s)-(CH2)sCH3 =0-0-C0-(CH2)4 CH3 =0 -CH (CH 3 )- (CH2 ) 4 CH2 =0 -0-C0-(CH2); CH3 =0 -CH (CH 3 )~ (CH2 ) 5 CH2 =0-0-C0-(CH2)6 CH3 =0-CH (CH 3)-(CH2)6 CH3 =0-0-C0-(CH2)7 CH3 =0-CH (CH : ) - (CH2 ) 7 CH3 =0-0-C0-(CH2): CH3 =0-CH (CH s )-(CH2) & CH3 =0 -0-CO-(CH2), CH3 =0-CH (CH 3 )- (CH2 ) 9 CH3 =0-0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>10</sub> CH<sub>3</sub> =0-CH (CH 3)-(CH2)10 CH3 -0-C0-(CH2)11 CH3 =0 -CH (CH 3)-(CH2)11 CH3 =0-0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>12</sub> CH<sub>2</sub> =0-CH (CH 3 ) - (CH2 ) 1 2 CH3 =0 -0-C0-CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> -CH(CH 3)-CH(CH3)2 =0=0 -0-C0-CH2CH(CH3)2 =0-CH (CH 3 )-CH2 CH (CH3 ) 2 =0-0-CO-(CH:): CH(CH:): =0 -CH(CH;)-(CH;); CH(CH;); =0-0-C0-(CH2)3 CH(CH3)2 =0 -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 -0-C0-(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 ~CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 -0-CO-(CH2)5 CH(CH3)2 =0-CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>5</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 -0-C0-(CH<sub>2</sub>); CH(CH<sub>3</sub>); =0 -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>3</sub>), =0 -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>8</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0 -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>8</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0-0-C0-(CH2)9CH(CH3)2 =0 -CH(CH;)-(CH2)9 CH(CH3)2 =0-0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>10</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> =0-CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>10</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub> -0H -0-C0-CH<sub>3</sub> =0 -CH(CH 3)-0-CH3 -0H -0-CO-CH 2 CH3 =0-CH(CH 3)-0-CH2 CH3 -0H -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>CH<sub>3</sub> =0-CH(CH : )-O-(CH2)2 CH3 -0H -0-CO-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub> CH<sub>3</sub> =0-CH(CH 3)-O-(CH2)3 CH3 -0H -0-CO-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH<sub>3</sub> =0-CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH<sub>3</sub> -0H -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>5</sub> CH<sub>3</sub> =0-CH(CH 2)-0-(CH2)6 CH3 -0H -0-CO-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH<sub>3</sub> =0 -CH(CH s)-0-(CH2)6 CH3

(

```
5
                                                                                                                            6
     -OR
                  -0-CO-(CH:): CH:
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH 2)-O-(CH2)7 CH2
     -OH
                  -0-C0-(CH 2 ) x CH3
                                                                                        -CH (CH 1)-0-(CH2) 8 CH1
                                                                           =0
     -0H
                  -0-CO-(CH2)9CH3
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>9</sub> CH<sub>3</sub>
     -0H
                  -0-CO-(CH2)10 CH3
                                                                           =:0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>10</sub> CH<sub>3</sub>
     -0II
                  -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>11</sub> CH<sub>3</sub>
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>11</sub> CH<sub>3</sub>
     −0H
                  -0-C0-(CH2)12CH3
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH 3)-0-(CH2)12CH3
     -0H
                  -0-C0-CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH 3)-O-CH(CH3)2
     -OH
                  -0-CO-CH 2 CH (CH2) 2
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH :)-0-CH2 CH(CH3):
     -OH
                  -0-CO-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -OH
                  -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     −0H
                  -0-C0-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -0H
                  -0-CO-(CH<sub>2</sub>)<sub>5</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>5</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -OH
                  -0-CO-(CH 2 ) 6 CH(CH3) 2
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           =0
     -OH
                  -0-C0-(CH2), CH(CH3);
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -OH
                  -0-CO-(CH2):CH(CH3):
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -OH
                  -0-CO-(CH 2 ) 4 CH(CH3) 2
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH<sub>2</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -0H
                  -0-C0-(CH2); 6 CH(CH3)2
                                                                           =0
                                                                                        -CH(CH s)-0-(CH2)10 CH(CH3)2
     -OH
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-CH<sub>5</sub>
                                                                          -OH
                                                                                        -CH(CH 1)-0-CH3
     -0H
                  -CH (CH 1) -CH2 CH3
                                                                          -0Ħ
                                                                                        -CH (CH 1)-0-CH2 CH3
     -01
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>CH<sub>3</sub>
                                                                          -OH
                                                                                        -CH(CH:)-O-(CH:); CH:
     -0H
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub> CH<sub>3</sub>
                                                                          -OH
                                                                                        -CH(CH s)-O-(CH2) s CHs
     -ОН
                  -CH(CH2)-(CH2)4 CH2
                                                                           -OH
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH<sub>3</sub>
     -0H
                                                                                       -CH (CH 1)-0-(CH2), CH3
                  -CH(CII,)-(CH2), CH
                                                                          -0E
     -OH
                  -CH (CH 1) - (CH 2) 6 CH 1
                                                                          -0H
                                                                                        -CH(CH 2)-0-(CH2) 6 CH3
     -OH
                  -CH (CH 1 ) - (CH 2 ) 1 CH 3
                                                                           -08
                                                                                        -CH(CH 3)-0-(CH2), CH3
     -OH
                  -CH(CH3)-(CH2)4 CH3
                                                                           -0B
                                                                                        -CH(CH 2)-O-(CH2) 6 CH3
     -011
                  -CH(CH<sub>2</sub>)-(CH<sub>2</sub>), CH<sub>2</sub>
                                                                           -0H
                                                                                        -CH(CH 3)-0-(CH2), CH3
     -0H
                  -CH (CH 2 ) - (CH 2 ) 1 0 CH 3
                                                                           -0H
                                                                                        -CH(CH s)-0-(CH2)10 CH3
     -OH
                  -CH(CH2)-(CH2)11 CH3
                                                                          -08
                                                                                        -CH(CH 3)-0-(CH2)11 CH3
     -OH
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>12</sub>CH<sub>3</sub>
                                                                           -0H
                                                                                       -CH(CH 1)-0-(CH2)12 CH3
     -OH
                  -CH(CH3)-CH(CH3)2
                                                                           -OH
                                                                                        -CH(CH 2)-O-CH(CH 3)2
     -0H
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-CH<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           -0H
                                                                                       -CH(CH<sub>3</sub>)-0-CH<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -OH
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           -OH
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
     -OH
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                           -0H
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                  -CH(CH<sub>2</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
    -0H
                                                                           -OH
                                                                                        -CH(CH s)-0-(CH2)4 CH(CH3)2
    -OH
                  -CH(CH1)-(CH2)5 CH(CH3)2
                                                                           -OH
                                                                                       -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>5</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
    -OH
                  -CH(CH<sub>2</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                          -OH
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
    -OH
                                                                                       -CH(CH<sub>3</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                  -CH(CH<sub>2</sub>)-(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>
                                                                          -OH
    -0H
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>)<sub>8</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                          -OH
                                                                                       -CH(CH<sub>2</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub> CH(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>
    -0H
                  -CH(CH<sub>3</sub>)-(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                          -0H
                                                                                        -CH(CH<sub>2</sub>)-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>9</sub> CH(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>
    -OH
                  -CH(CH1)-(CH2)10 CH(CH3)2
                                                                          -0H
                                                                                        -CH(CH<sub>3</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)<sub>1</sub> p CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>
                                                                                       -0-C0-C 6 E3
    =0
                  -0-C0-C 6 Hs
                                                                          -0H
    =0
                  -0-C0-CH 2 Ca Hs
                                                                          -OH
                                                                                       -0-C0-CH 2 C6 FL
    =0
                  -CH (CH 2 CH2 ) - CH2 CH3
                                                                          -0B
                                                                                       -CH (CH 2 CH2) -CH2 CH3
    =0
                  -CH (CH: CEL )-0-CH2 CH2
                                                                          -0H
                                                                                       -CH (CH 2 CH2) -O-CH2 CH3
    =0
                  -CH(CH1)-Co Hs
                                                                          -OH
                                                                                       -CH(CH 1)-C6 Hs
    =0
                  -CH (CH a ) -CH2 Ce H5
                                                                          -OH
                                                                                       -CH (CH 1)-CH2 C4 H3
" =0
                  -CH (CH 1 ) -CH2 CH2 C6 H5
                                                                          -OH
                                                                                       -CH(CH 1)-CH2 CH2 Ca Es
    =0
                 -(CH2)5 CH3
                                                                          -OH
                                                                                       -(CH 2); CH3
                  -(CH2)5 CH3
                                                                                       -(CH 2) 5 CHs
                                                                          -0H
```

=0-CH2 -O-CH2 CH3

-CH(CH<sub>3</sub>)-CH=CHCH<sub>2</sub>CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>

-OH -CH (CH 2 CH3) -O-CH2 CH3

-0H -CH (CH 3 )-O- (CH2 ) 1 5 CH (CH3 ) 2

これらのうち、特に好ましい化合物としては、X が=0 でありR が-CII(CHs)-(CH2)sCH(CH3)2 である化合物、X . が=0 でありR が-CH(CH<sub>2</sub>)-0-(CH<sub>2</sub>)2CH(CH<sub>2</sub>)2である化 合物、およびX が=0 でありR が-0-CO-(CH2), CH2 であ る化合物を挙げることができる。

【0009】これらの化合物の一部は新規化合物であ る。これらは、上記の式中、X が=0を示し、R が-0-C0 -R1 または-CHR2-R3 を示す化合物である。R1 は直鎖また は分枝したアルキル基、直鎖または分枝したアルケニル 基、直鎖または分枝したアラルキル基、あるいは置換ま たは非慣換フェニル基であり、Riは水索原子、あるいは 直鎖または分枝した低級アルキル基であり、R3は直鎖ま たは分枝したアルキル基、直鎖または分枝したアルケニ ル基、直鎖または分枝したアルコキシ基、直鎖または分 枝したアルケニルオキシ基、直鎖または分枝したアラル キル基、あるいは置換または非置換フェニル基である。 ただし、R は-CH(CH<sub>2</sub>)(CH<sub>2</sub>), CH(CH<sub>3</sub>), であることはな 20 い。これらの化合物は、例えば、本明細費の実施例に記 載された方法により製造することができる。

【0010】公知の化合物は、公知文献に記載された方 法により当業者に容易に製造される。例えば3β,5α ージヒドロキシコレスタン-6-オン (YS-64)等は、フ ィーザーらの方法(Fieser, L.F., Rajagopalan, S., J. Am. Chem. Soc., 1949, 71,3938-3941) により製造す ることができる。本発明の阻害剤は、リガンド依存的に 細胞質内から核内へと移行する性質を有する発がんプロ モーター結合蛋白CN-TPBP(Cytosolic-Nuclear Tumor Pr omoter-Specific Binding Protein)に対して強い親和性 を示し、TPA 等の発がんプロモータのCN-TPBP に対する 結合を拮抗的に阻害する。加えて、本発明の阻害剤は、 ホルポールエステルやテレオシジンのような蛋白質リン 酸化酵素活性化作用を有しないので、発がんプロモータ 一の作用を抑制することができ、発がんプロモーターの 作用抑制剤あるいは発がん抑制剤として有用である。発 がんプロモーターの作用機序の研究用試薬または発がん プロモーターのスクリーニング用試薬等の生化学用試薬 として、あるいは臨床検査用試薬として有用である。

【0011】本発明の阻害剤を、ヒト等の哺乳類に対し て発がん抑制剤として用いる場合には、式(1)で示さ れる上記の化合物を有効成分として含む医薬組成物とし て投与すればよい。このような医薬用組成物は、経口的 あるいは非経口的に患者に投与すればよく、例えば、錠 剤、カプセル剤、散剤、細粒剤、顆粒剤、液剤、及びシ ロップ剤等等の経口投与用医薬組成物、あるいは注射 剤、坐剤、吸入剤、点眼剤、点鼻剤、軟膏剤、及び貼付 剤等の非経口投与用医薬組成物として投与すればよい。

る添加物を加えて製造してもよい。薬理学的、製剤学的 に許容しうる添加物の例として、例えば、賦形剤、崩壊 剤ないし崩壊補助剤、結合剤、滑沢剤、コーティング 剤、色素、希釈剤、基剤、溶解剤ないし溶解補助剤、等 張化剤、p日調節剤、安定化剤、噴射剤、及び粘着剤等 を挙げることができ、これらは目的に応じて適宜当業者 により選択される。

ε

【0012】例えば、経口投与、あるいは経皮又は経粘 膜投与に適する医薬用組成物には、ブドウ糖、乳糖、D-マンニトール、デンプン、又は結晶セルロース等の賦形 剤:カルボキシメチルセルロース、デンプン、又はカル ポキシメチルセルロースカルシウム等の崩壊剤又は崩壊 補助剤:ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシブ ロビルメチルセルロース、ポリビニルピロリドン、又は ゼラチン等の結合剤:ステアリン酸マグネシウム又はタ ルク等の滑沢剤;ヒドロキシプロピルメチルセルロー ス、白糖、ポリエチレングリコール又は酸化チタン等の コーティング剤:ワセリン、流動パラフィン、ポリエチ レングリコール、ゼラチン、カオリン、グリセリン、精 製水、又はハードファット等の基剤; フロン、ジエチル エーテル、又は圧縮ガス等の噴射剤;ポリアクリル酸ナ トリウム、ポリピニルアルコール、メチルセルロース、 ポリイソブチレン、ポリプテン等の粘着剤; 木綿布又は プラスチックシート等の基布等の製剤用添加物を添加す ることができる。注射用に適する医薬用組成物には、注 射用蒸留水、生理食塩水、プロピレングリコール等の水 30 性あるいは用時溶解型注射剤を構成しうる溶解剤又は溶 解補助剤;プドウ糖、塩化ナトリウム、D-マンニトー ル、グリセリン等の等張化剤:無機酸、有機酸、無機塩 基又は有機塩基等のpH調節剤等の製剤用添加物を添加し てもよい。発がんの予防を目的として上記の医薬用組成 物を投与する場合の投与量は、目的に応じて適宜選択す ればよいが、例えば、成人一日あたり有効成分として0. 1~10 嘘を投与すればよい。

[0013]

【実施例】以下に本発明を実施例によりさらに具体的に 40 説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されること はない.

例1:3 $\beta$ , 5 $\alpha$ -ジヒドロキシー23, 24-ビスノ ルコラン-6-オン (YS-149)

スチグマステリルアセテートをメタクロル過安息香酸で 選択的に酸化した後、触媒量の過塩素酸の存在下に加水 分解して3β-アセトキシ-スチグマスト-22-エン  $-5\alpha$ ,  $6\beta$  - ジオールを得た。アルミニウムオキサイ ドの存在下にこの化合物をピリジニウムクロロクロメー トで酸化し、さらに6位ケトンをエチレンジオキシ基で これらの医薬組成物は、薬理学的、製剤学的に許容しう 50 保護して38-アセトキシー6、6-エチレンジオキシ スチグマストー22ーエンー5 $\alpha$ ーオールを得た。この 化合物をメタノールージクロロメタンーピリジン中でオゾン分解して、ピスノルコランー22ーアールを得た。 【0014】ピスノルコランー22ーアールをエチレン グリコール中でヒドラジン水和物と水酸化カリウムにより処理して6位ケトンの配保護を行い、3 $\beta$ ,5 $\alpha$ -ジヒドロキシー23,24ーピスノルコランー6ーオンを 得た。

YS-149: 無色針状晶 m.p. 149-150 ℃ (エタノール/n-ヘキサン)

Anal.  $(C_{22}H_{16}O_3: R=-CH(CH_3)_2)$ 

'H-NMR (CDC1s) 0.64(s, 3H, 18-CH<sub>2</sub>), 0.81(s, 3H, 19-CH<sub>3</sub>), 0.84(d, 3H, J=6.6Hz, 22-CH<sub>2</sub>), 0.92(d, 3H, J=6.6Hz, 21-CH<sub>3</sub>), 2.01(bd, 1H), 2.13(dd, 1H, J=12.8 & 4.8Hz, 7-beta-E), 2.70 (t, 1H, J=12.8Hz, 7-alpha-H), 3.97(n, 1H, 3-alpha-H)

【0015】例2:3 $\beta$ ,  $5\alpha$ -ジヒドロキシー23, 24-ピスノルコランー6-オン(YS-149)の側鎖伸長体

ピスノルコラン-22-アールをテトラヒドロフラン中 20 で適当なホスホニウムイリドにより処理してシス体およびトランス体の混合物として22-不飽和化合物を得た。例1に記載された方法により6位ケトンの脱保寝を行い、さらに22位の二重結合を接触還元して3 $\beta$ ,5 $\alpha$ -ジヒドロキシー23,24-ピスノルコラン-6-オン (YS-149) の創鎖伸長体を得た。

YS-151: m.p. 245-246.5 ℃ (エタノール/n-ヘキサン)

Anal.  $(C_{23}H_{31}O_{3}: X=0, R=-CH(CH_{3})CH_{2}CH_{2})$ 

YS-152: n.p. 248-249.5 ℃ (エタノール/n-ヘキサ 30ン)

Anal.  $(C_{24}H_{40}O_{3}: X=0, R=-CH(CH_{3})CH_{2}CH_{2}CH_{3})$ 

YS-153: a.p. 239-241.5 ℃ (エタノール/n-ヘキサン)

Anal. (C25 H12 O3: X=0, R=-CH(CH3) CH2 CH2 CH2 CH3)

YS-154: m.p. 226-229 ℃ (酢酸エチル)

Anal. (C26H403: X=0, R=-CH(CH1)CH2CH2CH2CH2CH2CH2)

YS-155: m.p. 217-220 ℃ (酢酸エチル)

Anal. (C2  $_7$  H4  $_6$  O5 : X=0, R=-CH (CH  $_3$  ) CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 C

YS-156: m.p. 210-212 ℃ (酢酸エチル)

YS-157: m.p. 212-214 ℃ (酢酸エチル)

Anal. (C2, H5, O3: X=O, R=-CH(CH3)CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH2 CH3

YS-161: m.p. 241-243.5 ℃ (酢酸エチル)

Anal.  $(C_2 \circ H_1 \circ O_3 : X=0, R=-CH(CH_3)CH_2CH_2C_6H_5)$ 

【0016】例3:3b,5a-ジヒドロキシコレスト-22E-エン-6-オン(YS-126)

ピスノルコランー22-アールをテトラヒドロフラン中でイソアミルトリフェニルホスホニウムイリドで処理し、トランス-22-エン体を得た。6-ケト基と3ペータ水酸基の脱保護を行い、目的化合物を得た。

10

YS-126: m.p. 235-238 ℃ (酢酸エチル)

Anal. (C<sub>27</sub> H<sub>1</sub>·O<sub>3</sub>: R=-CH(CH<sub>2</sub>)CH=CHCH<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>)

<sup>1</sup> H-NMR (CDCl<sub>3</sub>) 0.68(s, 3H, 18-CH<sub>3</sub>), 0.81(s, 3H, 19-CH

<sup>3</sup>), 0.88, 0.89(d, 2×3H, J=6.6Hz, 26-,27-CH<sub>2</sub>), 0.95
(d, 3H, J=6.6Hz, 21-CH<sub>3</sub>), 2.01(bd, 1H), 2.13(dd, 1H, J=1

2.7 & 4.7Hz, 7-beta-H), 2.41(m, 1H, 20-H), 2.71 (t, 1

H, J=12.7Hz, 7-alpha-H), 3.97(m, 1H, 3-alpha-H), 5.18
(m, 2H, 22-, 23H)

【0017】例4

5.00gのプレグネノロンをジメチルホルムアミド15 mlとテトラヒドロフラン15mlの混合物に溶解し、イミダゾール4.395g(3当量)を加えた。氷冷下に、3.685gのターシャリープチルジメチルシリルクロライド(約1.5当量)を加えて10時間投弁した。30mlの水を加えて溶媒を留去し、ジクロルメタンで抽出して、水洗、脱水後に溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(酢酸エチル:n-ヘキサン=10:1)により精製し、6.57gの3位水酸基のシリル化保護体を得た(収率96.5%)。酢酸エチルより再結晶して無色柱状晶を得た(n.p. 164.5-165℃)。

【0018】上記のシリル体3.35gをエタノール50 ulとテトラヒドロフラン50mlの混合物に溶解し、ナト リウムボロハイドライド0.90gを氷冷下に加え、室温 で5時間機拌した。5%酢酸を溶液に加えて溶媒を留去 し、水を加えてジクロルメタンにより抽出した。水洗、 脱水後に溶媒を留去し、シリカゲルカラムクロマトグラ フィー(酢酸エチル:a-ヘキサン=7:1)により精製 し、20位カルボニル基が水酸基に還元された化合物2. 44gを得た(収率72.4%)。メタノールより再結晶 して無色針状晶を得た (m.p. 151℃)。ナトリウムハイ ドライド 138.8 昭 をn-ヘキサン(1m)×3)で洗浄してキ シレン 1 ml に懸濁し、上記の化合物 606.7 mg をキシレ ン4mlに溶解して加え、イソペンチルクロライド0.87 alを加えて17時間還流した。10%クエン酸と水を加 えてジクロルメタンにより抽出し、水洗、脱水した後、 溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラ フィー(ロ-ヘキサン:ジクロルメタン=3:1)により 精製して、20位にイソペンチルオキシ基が導入された

より再結品して無色針状晶を得た (m.p. 82 ℃)。 ¹B-NMR (400M田2/CDCl<sub>3</sub>) 0.05(s,6H,TBDMS Me), 0.69(s, 3H,18-CH<sub>3</sub>), 0.88(s,9H,TBDMS t-Bu), 0.90(d,6H,J=6,5 Hz,4'-CH<sub>2</sub>), 1.00(s,3H,19-CH<sub>3</sub>), 1.06(d,3H,J=6.0Hz,2 1-CH<sub>3</sub>), 3.22(dt,1H,J=7.9Hz,1'-H), 3.25(m,1H,20-H), 3.47 (m,1H,3-H), 3.57(dt,1H,J=7.9Hz,1'-H), 5.31(d

化合物 490.8 咳を得た (収率69.7%)。 メタノール

50 d, 1H, J=5. 0Hz, 6-H)

¹H-NMR (400MHz/CDCl₃) 0.69(s, 3H, 18-CH₃), 0.90(d, 6 H, J=6.5Hz, 4'-CH₃), 1.02(s, 3H, 19-CH₃), 1.06(d, 3H, J= 6.0Hz, 21-CH₃), 3.21(dt, 1H, J=7.9Hz, 1'-H), 3.23(m, 1 H, 20-H), 3.50-3.58(m, 2H, 3-H, 1'-H), 5.35(dd, 1H, J=5.5Hz, 6-H)

上記の脱保護体 371.2 mg をジクロルメタン2ml に溶解してピリジン0.4mlを加えた後、無水酢酸0.55mlを滴下して室温で1日税拌した。ジクロルメタン50mlを加え、2N塩酸 (30ml×2)、飽和重曹水 (30ml×2) および水50mlで洗浄し、脱水後に溶媒を留去した。シリカゲルカラムクロマトグラフィー (n-ヘキサン:酢酸エチル=10:1)で精製し、3位アセトキシ体 387.0 mg を得た (収率94.1%)。メタノールより再結晶して無色針状晶を得た (m.p. 75.5-76℃)。

<sup>1</sup> H-NNR (400MHz/CDCl<sub>3</sub>) 0.69(s, 3H, 18-CH<sub>3</sub>), 0.90(d, 6 H, J=6.5Hz, 4'-CH<sub>3</sub>), 1.02(s, 3H, 19-CH<sub>3</sub>), 1.06(d, 3H, J=6.0Hz, 21-CH<sub>3</sub>), 2.03(s, 3H, Ac0), 2.32(d, 2H, J=7.0Hz, 4-H), 3.21(dt, 1H, J=7.9Hz, 1'-H), 3.24(m, 1H, 20-H), 3.57(dt, 1H, J=7.9Hz, 1'-H), 4.60(m, 1H, 3-H), 5.37(dd, 1 H, J=5.0Hz, 6-H)

主生成物: 'H-NMR (400MHz/CDCl<sub>2</sub>) 0.62(s,3H,18-CH<sub>2</sub>), 0.88(d,6H,J=7.0Hz,4'-CH<sub>2</sub>), 1.04(d,3H,J=6.0Hz,21-CH<sub>2</sub>), 1.08(s,3H,19-CH<sub>2</sub>), 2.01(s,3H,AcO), 2.88(d,1H,J=4.5Hz,6-H), 3.15-3.25(m,2H,1'-H, 20-H), 3.55(m,1H,1'-H), 4.95(m,1H,3-H),

副生成物: 'H-NMR (400MH2/CDCl<sub>1</sub>) 0.65(s, 3H, 18-CH<sub>2</sub>), 0.88(d, 6H, J=7.0H2, 4'-CH<sub>3</sub>), 1.01(s, 3H, 19-CH<sub>3</sub>), 1.04(d, 3H, J=6.0Hz, 21-CH<sub>3</sub>), 2.03(s, 3H, AcO), 3.07(d, 1H, J=4.0Hz, 6-H), 3.15-3.25(m, 2H, 1'-H, 20-H), 3.55(m, 1H, 1'-H), 4.76(m, 1H, 3-H),

上記のエポキシ体273.8mgをアセトン8mlに溶解し、

過塩素酸0.05ml、水0.05ml、およびアセトン2mlの混合物を水冷下に加えて、室温で1時間攪拌した。飽和重曹水2mlを加えてアセトンを留去し、水を加えて酢酸エチルで抽出 $(30ml \times 2)$ した。飽和食塩水で洗浄し、脱水して溶媒を留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー $(n-\Lambda+ + 1)$ :酢酸エチル=2:1)により精製してエボキシが開環したジオール体 262.8mg を無色固体として得た(収率92.5%)。

12

<sup>1</sup> H-NMR (400MHz/CDC1<sub>3</sub>) 0.69(s.3H.18-CH<sub>2</sub>). 0.89(d.6 H, J=7.0Hz, 4'-CH<sub>3</sub>), 1.05(d, 3H, J=6.0Hz, 21-CH<sub>3</sub>), 1.19 (s, 3H, 19-CH<sub>2</sub>), 2.02(s, 3H, AcO), 3.19(dt, 1H, J=7.9Hz, 1'-H), 3.24(m, 1H, 20-H), 3.53-3.56(m, 2H, 1'-H, 6H), 5.15(m, 1H, 3-H)

'H-NNR (400MHz/CDCl<sub>3</sub>) 0.65(s,3H,18-CH<sub>3</sub>), 0.83(s,3 H,19-CH<sub>3</sub>), 0.89(d,6H,J=6.5Hz,4'-CH<sub>3</sub>), 1.06(d,3H,J=6.0Hz,21-CH<sub>3</sub>), 2.02(s,3H,AcO), 2.12(dd,1H,J=5.14Hz,7-beta-H), 2.75(t,1H,J=13Hz,7-aiph-H), 3.16-3.27 (m,1H,1'-H,20-H), 3.58(dt,1H,J=7.9Hz,1'-H), 5.03(m,1H,3-H)

YS-330: m.p. 232 °C (n-ヘキサン/酢酸エチル)
Anal. (C<sub>2</sub> 6 H<sub>1</sub> 0 0 : X=0, R=-CH(CH<sub>3</sub>)-0-CH<sub>2</sub> CH<sub>2</sub> CH(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>)
「H-NMR (400MHz/CDCl<sub>3</sub>) 0.66(s, 3H, 18-CH<sub>3</sub>), 0.82(s, 3
H, 19-CH<sub>3</sub>), 0.88(t, 6H, 24-CH<sub>3</sub>), 1.06(d, 3H, 21-CH<sub>3</sub>),
2.11-2.16(m), 2.72(t, 1H, J=13Hz), 3.16-3.25(m, 2H),
3.57(dt, 1H), 3.97(m, 1H)

【0020】例5

(YS-510) 3-ハイドロキシーデヒドロエピアンドロテロン3.12gをジクロルメタン50mlに溶解し、ジイソプロピルエチルアミン7.28g、統いて2-クロロメトキシエチルトリメチルシラン5.54gを室温で加えた。この混合物を室温で90分放置した後に飽和風費水を加えて反応を停止し、水150mlおよびジクロルメ
50 タン100mlを加えてジクロルメタン層を分離した。水

層をジクロルメタン(200ml×2)で抽出し、有機層 をあわせて乾燥して濃縮した。残渣をシリカゲルカラム クロマトグラフィー (n-ヘキサン:酢酸エチル=2:0. 3) により精製して3位水酸基の保護体5.24gを得 た。エタノール/水から再結晶して白色結晶を得た (m. p. 77.5-79℃).

<sup>1</sup> H-NMR (400MHz/CDC1;) 0.01(s, 9H), 0.93(t, 2H, J=7.0H z), 0.88(s, 3H), 1.02(s, 3H), 2.08(dd, 1H, J=19Hz, 8.0H z), 1.06-2.48(m, 23H), 2.45(dd, 1H, J=19Hz, 8.0Hz), 3. 43(m, 1H), 3.62(t, 2H, J=8.0Hz), 4.72(s, 2H), 5.37(d, 1 H. J-5. OHz)

上記の3位水酸基保護体5.20gのジクロルメタン溶液 25 mlに、ジクロルメタン40 mlに溶解した70%メタ クロル過安息香酸3.22gを加えて室温で30分間放慢 した。この混合物を10% NaHSO; (100ml×2)、 続いてNaHCOs (150ml×2)で洗浄し、有機層を乾燥 して濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフ ィー(n-ヘキサン:酢酸エチル=4 : 1)により精製し てエポキシ体4.37gを白色結晶として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (400MHz/CDCl<sub>3</sub>) 0.01(s, 9H), 0.81(s, 3H), 2.93 (d, 1H, J=4.5H2), 3.11(d, 1H, β-エポキシ体), 3.59(m, 1H), 3.78(m, 1H, α-エポキシ体)

上記エポキシ体4、3 7 gをアセトン150mlおよび水1 2 mlの混合物に溶解して過塩素酸 (70%) 1.4 mlを滴 下した。この溶液を室温で3時間放置した後、飽和重曹 水を加えて反応を停止した。この混合物を濃縮して残渣 をジクロルメタンおよび水に分配し、有機層を乾燥して 濃縮した。 残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ローヘキサン:酢酸エチル=1:1) で精製してエポキ シが開裂したジオール体3.43gを得た(収率78 %)。n-ヘキサン/酢酸エチルから再結晶して白色結晶 を得た (m.p. 155-157°C)。

【0021】上記のジオール体3.37gをエタノール1 20mlに溶解し、ナトリウムボロハイドライド439mg を0℃で加えた。室温で1時間攪拌した後、この混合物 を濃縮し残渣をジクロルメタンおよび水に分配した。水 層をジクロルメタン(2×200ml)で抽出し、有機層 を合わせて乾燥して濃縮した。残渣をシリカゲルカラム **クロマトグラフィー(ロ-ヘキサン:酢酸エチル=2:** 3) により精製して17位ハイドロキシ体3.36gを得 40 た。D-ヘキサン/酢酸エチルから再結晶すして白色結晶 を得た (m.p. 122-123℃)。

<sup>1</sup> H-NMR (400MHz/CDCl<sub>3</sub>) 0.025(s, 9H), 0.75(s, 3H), 0.9 3(t, 2H, J=8, 5Hz), 1.18(s, 3H), 1.05-2.14(m, 22H), 3.52(brs, 1H), 3.63(m, 3H), 3.98(m, 1H), 4.72(s, 2H)

【0022】ジクロルメタン0、3回にピリジン0、05を 溶解し、50gの上記17位ハイドロキシ体を加え、続 いてブチリルクロライド0.021g (1.5当量) のジク ロルメタン溶液 (0.3 ml) を加えた。さらに15分毎に 原料が消失するまで0.5 当量ずつのブチリルクロライド 50 Anal. (Cxx Hx 60x: X=0, R=-0-CO-(CH2); 2CHx)

を加えた。ジクロルメタン20ml加えて水洗し(20ml ×2)、乾燥して濃縮した。残渣をシリカゲルカラムク ロマトグラフィー (ローヘキサン:酢酸エチル=2:1) により精製して17位プチリルオキシ体50.3gを無色 油状物として得た(収率78.6%)。

14

<sup>1</sup> H-NMR (400MHz/CDC1<sub>2</sub>) 0.02(s,9H), 0.80(s,3H), 0.91 -2. 29 (m, 33H), 3. 53 (brs, 1H), 3. 62 (t, 2H, J=8. 0Hz), 3. 98(m, 1H), 4.61(1, 2H, J=8Hz), 4.72(s, 2H)

ピリジニウムクロロクロメート (PCC) 0.35gおよ びAl: 0: 1.13gをジクロルメタン8mlに懸濁し、アル ゴン雰囲気中で激しく提拌しつつ、上記の17位プチリ ルオキシ体をジクロルメタン8mlに溶解して氷冷下に加 えた。室温で2時間攪拌し、後処理することなくシリカ ゲルカラムクロマトグラフィー(ロ-ヘキサン:酢酸エチ ル=4:1)で精製して、6位ケトン体 223 📭 を白色 結晶として得た(収率79%)。

<sup>1</sup> H-NMR (400MHz/CDCl<sub>3</sub>) 0.02(s, 9H), 0.81(s, 3H), 0.92 -2. 14(m, 26H), 2. 26(t, 2H, J=7Hz), 2. 74(t, 2H, J=13Hz), 3.53(brs, 1H), 3.62(t, 2H, J=9.0Hz), 3.87(m, 1H), 4.6 20 6(1, 2H, J=8Hz), 4.72(s, 2H)

上記の化合物 58.5 嘘をジクロルメタン 1 回に溶解し、 トリフルオロ酢酸2回を0℃で加えた。混合物を0℃で 30分間放置した後、水30mlを加えて反応を停止し、 ジクロルメタン (30ml×2) で抽出した。飽和重曹水 (30ml×2) で洗浄し、乾燥して濃縮した。残渣をシ リカゲルカラムクロマトグラフィー (ローヘキサン: 酢酸 エチルニ1:4) により精製して目的物37.7gを白色 結晶として得た。

YS-510: m.p. 227-228 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル) Ana!. ( $C_{23}H_{36}O_5$ : X=0, R=-0-C0-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>CH<sub>3</sub>) 30 <sup>1</sup> H-NMR (400MH<sub>2</sub>/CDCl<sub>3</sub>) 0.77(s, 3H), 0.81(s, 3H), 0.94 (t, 3H, 7-H), 1.18-2.29(a, 15H), 1.69-1.60 (hex, 2H, J= 7. OHz), 2. 12(dd, 1H, J=12. 5Hz, 4. 5Hz), 2. 22(s, 1H), 2, 27(t, 1H, J=7.0Hz), 2.74(t, 1H, J=12.5Hz), 3.96(m, 1H), 4. 64 (2H, J=8, 0Hz)

【0023】例4および例5と同様にして以下の化合物 を製造した。

YS-500: ■.p. 255-256 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル) Anal. (C21H2:Os: X=O, R=-O-CO-CH3)

YS-520: n.p. 205-206 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル) Anal. (C25H40O5: X=0, R=-O-CO-(CH2)4CH3) YS-530: m.p. 186-187 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル) Anal. (C27 H44 O5: X=0, R=-O-CO-(CH2)6 CH2) YS-540: m.p. 182.5-183.5 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチ

Anal. (C2, H4, O5; X=0, R=-0-C0-(CH2), CH3) YS-550: m.p. 179-180 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル) Anal. (C31H52O5: X=0, R=-O-CO-(CH2)10CH3) YS-560: ■.p. 174-175 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル)

YS-570: m.p. 273.5-274.5 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル)

Anal.  $(C_{26} H_{34} O_5 : X=0, R=-0-C0-C_6 H_5)$ 

YS-310: m.p. 258 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル)

Anal.  $(C_{21} H_{36} O_4 : X=0, R=-CH(CH_3)-0-CH_3)$ 

YS-330: m.p. 232 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル)

Anal. (C<sub>2\*</sub>H<sub>14</sub>O<sub>4</sub>: X=O, R=-CH(CH<sub>3</sub>)----O-C<sub>3</sub>H<sub>11</sub>) YS-340: m.p. 238 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル)

Anal. (C<sub>2.6</sub> H<sub>4.6</sub> O<sub>4</sub>: X=O, R=-CH(CH<sub>2</sub>) ---O-C<sub>6</sub> H<sub>1.1</sub>)

YS-350: m.p. 146 ℃ (n-ヘキサン/酢酸エチル)

Anal. (C<sub>28</sub> H<sub>18</sub> O<sub>4</sub>: X=O, R=-CH(CH<sub>3</sub>)-O-C<sub>7</sub> H<sub>13</sub>)

[0024] 試験例

CN-TPBP(Cytosolic-Nuclear Tumor Promoter-Specific Binding Protein)を含むフラクション、およびPKC(Prot ein Kinase C) を含むフラクションを、以下のようにして調製した。凍結保存(-80℃)された懸濁培養ヒー\*

\*ラ細胞を0.6 MKC1-20 mN Tris-HC1 (pH 8.0) 中でホモジナイズした後に超遠心し、得られた上清をQAE-セファロースカラムクロマトグラフィーに付した。各フラクションを、ラベル化 12-0-テトラデカノイルホルボール13-アセテート ([\*H]TPA, NEN)を用いたTPA-特異的結合活性、PKC アッセイキット(Amersham)を用いたPKC 活性、ならびにPKCsに対する抗血清及び/又は抗体(Amersham)を用いたウエスタンプロットによりモニターして、目的のフラクションを得た。上記の化合物について、CN 10 -TPBP に対する結合親和性を、[\*H]TPA をプローブとして用いたデキストラン被覆活性炭(dextran-coated charcoat) 法によりリガンド競合アッセイを行った。結果を表2に示す。

16

[0025]

【表2】

CN-TPBP および PKCに対する[\*H]TPA 結合の%阻害

化合物 🖁		R	CN-TPBP		PKC
			100倍・	1,000 倍*	1,000 倍・
YS-64	-0	-CH(CH <sub>3</sub> )-(CH <sub>2</sub> ) <sub>5</sub> CH(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>		100	0
YS-149	=0	-CH(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	11	48	0
YS-151	=0	-CH (CH 3 ) -CH2 CH5	1	57	_
YS-152	=0	-CH(CH <sub>5</sub> )-(CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> CH <sub>5</sub>	26	46	-
YS-153	=0	-CH(CH <sub>3</sub> )-(CH <sub>2</sub> ) <sub>3</sub> CH <sub>3</sub>	41	88	-
YS-154	=0	-CH (CH s ) - (CH2 ) 4 CH3	54	86	2
YS-155	=0	-CH (CH 3 ) - (CH2 ) 5 CH3	51	98	2
YS-156	=0	-CH(CH <sub>3</sub> )-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> CH <sub>3</sub>	35	88	4
YS-157	=0	-CH (CH 3 ) - (CH2 ) 7 CH3	26	82	-
YS-161	=0	-CH (CH 3 ) - (CH2 ) 2 Co Hs	27	41	-
YS-126	=0	-CH(CH <sub>3</sub> )-CH=CHCH <sub>2</sub> CH(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	• 14	10	-
YS-510	=0	-0-CO-CH 2 CH2 CH3	0	2	_
YS-520	=0	-0-CO-(CH 2)4 CH5	0	2	-
YS-530	=0	-0-CO-(CH <sub>2</sub> ) <sub>6</sub> CH <sub>3</sub>	3	43	_
YS-540	=0	-0-CO-(CH <sub>2</sub> ) <sub>8</sub> CH <sub>5</sub>	22	64	_
YS-550	=0	-0-C0-(CH <sub>2</sub> ) <sub>10</sub> CH <sub>3</sub>	11	56	_
YS-560	=0	-0-C0-(CH <sub>2</sub> ) <sub>12</sub> CH <sub>3</sub>	6	44	_
YS-570	<b>=</b> 0	-0-CO-C a Ha	2	17	_

<sup>・</sup>過剰

## [0026]

【発明の効果】発がんプロモーター結合蛋白CN-TPBP(Cy tosolic-Nuclear Tumor Promoter-Specific Binding Pr otein)に対して強い親和性を示し、TPA 等の発がんプロモータのCN-TPBP に対する結合を拮抗的に阻害する。加

えて、本発明の阻害剤は、ホルボールエステルやテレオシジンのような蛋白質リン酸化酵素活性化作用を有しないので、発がんプロモーターの作用を抑制することができ、発がんプロモーターの作用抑制剤あるいは発がん抑制剤として有用である。

<sup>&</sup>quot;トランス体

This Page Blank (uspto)